化学·生物総合管理の再教育講座（講義内容）

前期

科目No.	401	科目名	リスク学概論１		サブネーム	社会におけるリスク		
共催機関名	長岡技術科学大学	レベル	基礎		講義枠	土曜日	講義時間	14:00～15:30，15:50～17:20
科目概要	技術とそのリスク管理の係りの原型を、大航海時代·産業革命の時代に遡って説き起こし、「自己責任型リスク管理体制」の特徴を明らかにする。一方、後発工業国日本では「法令·政府主導型リスク管理体制」が形成された過程を示す。こうした対比を通じて、技術リスクマネジメントを考える際の基本的枠組みを提供する。							

サブタイトル	№	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1	はじめに	講義目的、講義概要、評価方法、学習の補助資料などに関するガイダンスを行う。	6月18日	102	三上　喜貴	長岡技術科学大学　経営情報系
技術革新とリスク	2	技術リスク管理の原型	技術リスク管理の原型を、大航海時代·産業革命の時代に遡って説き起こし、「自己責任型リスク管理体制」の特徴を明らかにする。一方、後発工業国日本では「法令·政府主導型リスク管理体制」が形成されてきた経過を明らかにする。こうした対比を通じて、技術リスクマネジメントを考える際の基本的枠組みを解説する。	6月18日	102		
	3	事業者責任の拡大	20世紀に入り、事業者の責任は雇用者の労働安全衛生、廃棄物処理、生産物に関する責任（製造物責任、拡大生産者責任）などへと拡大され、同時に規制当局としての政府の役割も拡大されたことを紹介する。	6月25日	102		
日本の安全規制	4	ケース：工場事故	ある化学工場の工場爆発事故に関する事故とその後の顛末をケースとして、日本の安全規制法令の具体的運用や制度改正の実態について紹介する。	7月2日	102		
	5	保安四法等	「保安四法」（消防法、高圧ガス保安法、コンビナート防災法、労働安全衛生法）を中心に安全規制法令の歴史と概要について解説する。	7月2日	102		
	6	ケース：製品事故	製品事故に関する様々な情報源を利用して、リスク分析の基本となる「合理的に予見される誤使用」や「ハザード」の同定などの重要性、そのための情報源などについて紹介する。	7月16日	102		
	7	製品安全四法とＰＬ法	「製品安全四法」（消費生活用品安全法、電気用品安全法、ガス事業法、LPG法）を中心に製品安全規制法令の歴史と概要について解説する。 製品リスク管理をする上で重要な役割を果たす「表示制度」の重要性と仕組み、及び製造物責任法について解説する。	7月16日	102		
	8	講義のまとめ	安全マネジメントと社会について	7月16日	102		
国際化する「安全」	9	規格戦争	経済活動がグローバル化する中で、非関税障壁としての各種規格を巡る企業間·国家間紛争が拡大している。これを様々なケースを通じて紹介する。	7月23日	102		
	10	WTO、ISO/IECとILO	安全に関するグローバルな枠組みを形成するWTO、ISO/IEC、ILOの仕組みと機能について解説する。	7月23日	102		
	11	EUのニューアプローチ	安全問題、環境問題においてリーダーシップを発揮する欧州共同体の戦略と「ニューアプローチ政策」について紹介する。	7月23日	102		
情報セキュリティ	12	情報技術の発達と情報セキュリティ	情報技術の進展による経営環境の変化を概観し、経営管理としての情報セキュリティ·マネジメントについて学習する。セキュリティ·ポリシーの確立と徹底、個人情報や営業秘密の保護などについて解説する。	8月6日	102	淺井　達雄	長岡技術科学大学　経営情報系
	13	企業活動における情報技術の浸透と脆弱性	現代社会の諸々の活動への情報技術（IT）の急速な浸透に伴い生じている、依存性と脆弱性の増加について、リスク·マネジメントの観点から解説する。	7月30日	102	渡辺　研司	長岡技術科学大学　経営情報系
講義のまとめ	14	リスクマネジメントと社会	事業者として法令順守や社会的責任を超越した戦略的なリスク·マネジメントが求められるようになった今日の社会·経済環境と、今後の方向性について解説する。	7月30日	102		
	15	技術者倫理	リスクマネジメントも、最終的には個々の技術者の責任感、倫理観に帰着する部分が大きい。こうした観点から、組織と技術者、学協会の策定する倫理綱領などについて解説する。	8月6日	102	淺井　達雄	長岡技術科学大学　経営情報系